

琵琶湖一円におけるホンモロコの産卵状況

臼杵 崇広

◆背景・目的

これまでに、琵琶湖北部の主要な産卵場においてホンモロコの産卵状況を調査し、5月中旬から6月中旬の人為的な湖水水位の急激な低下が生残する卵の割合を低下させることを明らかにした。今年度は琵琶湖全域における水位変動のホンモロコの産卵への影響を把握するために、沿湖12カ所で産卵状況の調査を実施した。

◆成果の内容・特徴

- 琵琶湖湖岸11カ所および伊庭内湖の計12カ所(湖岸距離約20~100m)のヨシ・ヤナギ帯において4月から7月までおよそ週に1回の頻度で前年と同様の方法によりホンモロコの産卵状況を調査した(図1)。
- ホンモロコの産卵が確認されたのは大津市A、守山市、近江八幡市、湖北町、西浅井町、高島市A・Bおよび伊庭内湖の8カ所で、産着卵数はそれぞれ19.7万粒(1調査日あたりの最大産卵面積1.70m²)、0.6万粒(同0.12m²)、12.4万粒(同0.68m²)、64.6万粒(同6.41m²)、8.0万粒(同0.41m²)、6.7万粒(同0.51m²)、6.1万粒(同0.55m²)および11.5万粒(同1.14m²)と推定された。
- 産着卵は4月8日から7月10日まで確認され、期間中の水温は11.9~25.3℃であった。
- 琵琶湖水位は3月中旬から5月末までは0cm~+25cmと中~高水位で推移したが、5月30日の+14cm以降急激に低下し、6月17日には-20cmとなった。
- 産卵のピークは琵琶湖南部、西部で早く、東部、北部で遅い傾向にあった。

◆成果の活用・留意点

現在、減少したホンモロコ資源を回復させるため、ふ化仔魚や卵の大量放流を実施しており、今後事業を琵琶湖一円に拡大して実施する際、本調査結果は水域ごとの放流時期を決定するための基礎資料として活用できる。

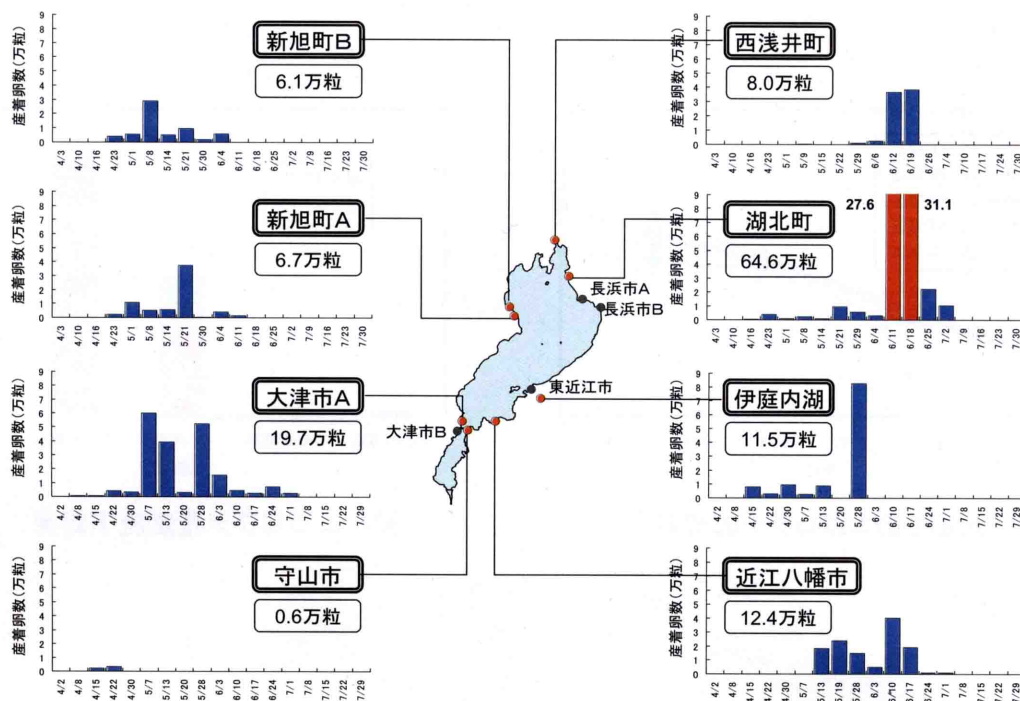


図1 ホンモロコ産卵調査地点と産卵状況。